



第60回北海道吹奏楽コンクール札幌地区予選【関連ページ11ページ】

副学長就任にあたって



北海道医療大学 副学長 浅香 正博

この10月より、北海道医療大学の副学長に就任いたしました。私は1972年に北海道大学医学部を卒業してから、米国へ留学した2年間を除いてほぼ40年間を北海道大学で過ごして参りました。診療に関しては消化器内科一筋の道を歩んできており、1994年より2011年まで北海道大学大学院医学研究科消化器内科の教授を務めております。この間192名の新人医師を迎えその臨床教育並びに研究指導を行い、112名に医学博士の学位を取得させました。2007年から3年間北海道大学病院の病院長を務めました。この時は北海道大学が独立行政法人に移行した後であり、膨大な借入金の返済に大変な苦勞をいたしました。北海道大学病院を挙げて努力した結果、3年後には借金返済にほぼめどが立ちました。この時、病院の運営には医師のみでなく、全ての医療関係者の協力が必要であることをしっかりと認識することができました。患者の診療には医師を中心として看護師、薬剤師などからなる医療チームの立ち上げが必要であり、そのチームワークが崩れると医療自体の質が落ちてくるのです。よいチー

ムワークによって患者にとって満足のいく医療ができると、受診してくれる患者数が増え病院の収入にもつながってくるのです。2011年に定年になった後、がん予防内科講座を創設し、診療から離れてがん予防について臨床サイドから研究を行ってきました。がん予防内科の5年間は研究に専念でき大変有意義に過ごすことができました。この間、北洋銀行との社会貢献事業として市民の方々に最新の医療の知識を提供するための医療セミナーを開催し、北海道大学病院の教授を中心に北洋銀行ホールにてわかりやすい講義をしていただきました。

このたび、東郷理事長より北海道医療大学へのお誘いがあり、身に余る光栄とお受けいたしました。北海道医療大学は北海道でトップレベルの医療系の総合大学であり、北海道の医療にとって重要な地位を占めております。本学についてまだ十分な知識がありませんのでできる限り早く溶け込み、学生および教職員の方々と共に北海道医療大学のさらなる発展に寄与したいと考えております。何卒よろしくお願いたします。

CONTENTS

副学長就任にあたって	1
教員役職者・新任教員・昇任教員紹介	2
看護師特定行為研修がスタート 「公認心理師」国家資格化へ	
地域包括ケアセンター開設	3
台北医学大学短期留学プログラムの 報告会を開催 【薬学部・看護福祉学部】	4
台北医学大学と薬学部との 意見交換会を開催	
サハリン州立歯科病院 エリメー工学院院长が本学を訪問 福岡歯科大学との大学間交流に関する 情報交換会を開催	5
中山大学イェテボリ大学短期留学 プログラムの報告会を開催	
2016年度入試結果速報	6
札幌丘高等学校との高大連携授業を実施 札幌開成中等教育学校特別講義 「先端科学特論」を実施	
地区別懇談会を開催	7
学園・同窓会役員懇談会を開催 学内合同就職相談会を開催	
私の学生時代	8
OB訪問【看護学科】	9
Student Campus President任命式 SCP活動報告会 2015	10
STUDENTS' ACTIVITIES & EVENTS	11
TOPICS	12
EDITOR'S NOTE	

教員役職者・新任教員・昇任教員紹介

新規選出教員役職者

副学長(平成27年10月1日付)・特任教授(平成27年8月1日付)

浅香 正博

新任教員

平成27年8月1日付



大学教育開発センター
(人間基礎科学・数学及び統計学) 講師

原田 潤平 (はらだ じゆんぺい)

広島大学理学部物理学卒業。同大学院理学研究科物理科学専攻博士課程後期修了。東京大学宇宙線研究所日本学術振興会協力研究員、新居浜工業高等専門学校数理科専任講師、同准教授等を経て、本学就任。理学博士。

平成27年8月1日付



看護福祉学部(人間基礎科学・文学及び文章指導) 大学教育開発センター 講師

井上 貴翔 (いのうえ きしやう)

大阪大学文学部人文学科卒業。北海道大学大学院文学研究科言語文学専攻映像・表現文化論講座博士後期課程修了。同大学院文学研究科専門研究員、北海道科学大学短期大学部非常勤講師等を経て、本学就任。文学博士。

平成27年7月1日付

歯学部 助教(口腔構造・機能発育学系(歯科矯正学)) 今野 正裕

平成27年8月1日付

歯学部 任期制助手(口腔機能修復・再建学系(歯周歯内治療学)) 早坂 啓太

昇任教員

平成27年8月1日付



歯学部 講師
(口腔構造・機能発育学系(歯科矯正学))

六車 武史 (むぐるま たけし)

北海道医療大学歯学部歯科学卒業。同大学院歯学研究科博士課程修了。同大学歯学部附属病院助手、同大学歯学部口腔構造・機能発育学系歯科矯正学分野助教を経て、講師昇任。歯学博士。

平成27年8月1日付



リハビリテーション科学部 教授
(作業療法学科)

近藤 里美 (こんどう さとみ)

千葉大学教育学部音楽科卒業。Simon Fraser Univ. 大学院教育学部カウンセリング心理学修士課程修了。本学看護福祉学部臨床福祉学科准教授、リハビリテーション科学部作業療法学科准教授を経て、教授昇任。カウンセリング心理学修士(Simon Fraser Univ.)

配置替

平成27年8月1日付

薬学部 准教授 薬学教育推進(薬事法制) 八木 直美

北海道医療大学大学院 看護福祉学研究所

看護師特定行為研修がスタート

10月1日、本学大学院看護福祉学研究所において、看護師特定行為研修(「特定行為に係る看護師の研修制度」)がスタートしました。

特定行為の研修機関については、厚生労働省の医道審議会において審議され、7月30日付で、同研究所が研修機関の指定を受けています。全国で14の研修機関が指定されており、北海道では唯一の指定となります。

本学が指定を受けた特定行為は、21区分38行為の内、13区分23行為になります。

11月19日には、北海道新聞社が本学を訪れ、「高度実践看護学演習I(担当:塚本容子教授)」取材しました。

高度実践看護学演習は特定行為を実施するための知識・技術の基礎を身に付けること、PBL(課題解決型学習)の授業形態にてシミュレーター等を使いつながり演習を行い、安全な手技を身に付けることを目的としています。

本学が指定を受けた13区分

- 呼吸器(気道確保に係るもの)関連
- 呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)関連
- ろう孔管理関連
- 栄養に係るカテーテル管理(中心静脈カテーテル管理)関連
- 栄養に係るカテーテル管理(末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理)関連
- 創傷管理関連
- 動脈血液ガス分析関連
- 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連
- 感染に係る薬剤投与関連
- 血糖コントロールに係る薬剤投与関連
- 循環動態に係る薬剤投与関連
- 精神及び神経症状に係る薬剤投与関連
- 皮膚損傷に係る薬剤投与関連



「高度実践看護学演習I」の様子

NEWS 「公認心理師」国家資格化へ

去る9月9日、参議院本会議において、「公認心理師法案」が全会一致で可決、成立し、病院や学校でカウンセリングや心理的ケアを行う「公認心理師」という新たな国家資格が設けられることになりました。

「公認心理師」とは、現行の「臨床心理士」と同様、教育、医療・保健、福祉、司

法・矯正、労働・産業、学術・研究など非常に多岐にわたる活動領域を想定しており、特定の分野に限定されない「汎用性」「領域横断性」を特長とする心理職国家資格を旨とするものです。これを受け、本学においても、「公認心理師」国家試験受験資格に対応すべく、準備をすすめていくこととしています。

2015年12月、札幌あいの里キャンパス(臨床キャンパス)に

地域包括ケアセンター開設

4人に1人が高齢者という超高齢社会を迎えた今、国を挙げた、医療・介護システムの大きな変革がはじまっています。

それは、従来の病院や福祉施設中心のサービスから、在宅医療・介護へのシフトを推進することです。

北海道医療大学は、そのような社会的状況にいち早く対応。

在宅ケアの拠点であり、多職種連携教育の拠点でもある「地域包括ケアセンター」を開設します。

多職種と連携しながら在宅ケアを実践できる医療人の育成と、地域社会への貢献をめざしていきます。



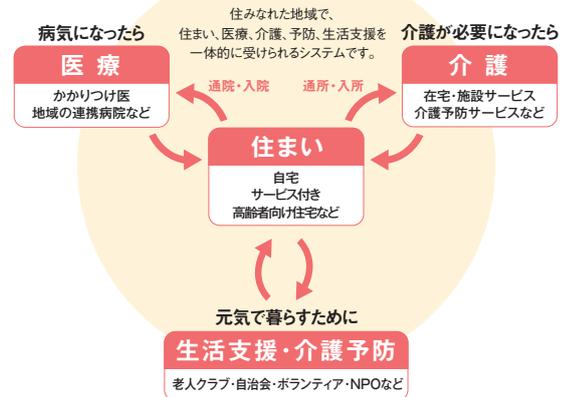
在宅ケアを実践できる医療人を育成します

病院・福祉施設から、在宅中心へ 変革が求められる医療・介護システム

超高齢社会を迎え、医療・介護システムの変革が求められている中、厚生労働省が推進しているのが「地域包括ケアシステム」の構築です。これは、病院や福祉施設を中心に提供してきた医療、介護、予防、生活支援などのサービスを、在宅でも一体的に受けられることができるシステム。住み慣れた自宅で、人生の最後まで自分らしい暮らしを送れるような地域社会をめざすものです。



地域包括ケアシステムとは？



在宅ケアの担い手を育てるために 北海道医療大学が、できること

国を挙げて在宅医療・介護へのシフトを推進する社会的状況に、本学はいち早く対応。2015年12月、札幌あいの里キャンパス・北海道医療大学病院の隣接地に「地域包括ケアセンター」を開設予定です。看護師、福祉専門職、リハビリテーション専門職などが密接に連携した在宅ケアを展開し、学生の実習拠点としても機能。在宅医療・介護の現場で即戦力となる人材を育成するための多職種連携教育が、さらに充実します。

北海道医療大学地域包括ケアセンターの機能

訪問看護や居宅介護支援事業などを通して地域社会に貢献し、学部・大学院生の実習教育を行う拠点として機能します。

在宅支援 (臨床)	●訪問看護(訪問リハ含む) ●居宅介護支援事業	— 大学病院などとの連携
社会貢献	●地域住民の交流の場づくり事業 ●地域住民の健康づくり支援事業 ●認知症をもつ方および家族の支援事業 ●地域関係機関との連携	
教育	●学部・大学院生の教育、多職種連携教育 ●専門職業人の生涯学習	
研究	●住民の生活習慣、生活機能に関する研究 ●教育効果に関する研究 ●高齢者ケア、認知症ケアに関する研究	

在宅ケア、多職種連携を学ぶ、 学部学科の枠を越えた実習教育を展開

病院や福祉施設で行われる従来の臨地実習は、相互に独立した専門領域縦割り型が中心でしたが、地域包括ケアセンターでは、学部学科の枠を越えて多領域を横断し、地域で暮らす住民の生活に密着した実習を行うことが可能です。在宅医療・介護の現場で必要とされる高度な専門性、多職種連携の深い理解、そして豊かなコミュニケーション力を実践的に習得します。



訪問看護ステーションと、居宅介護支援事業所を併設

訪問看護師、ケアマネージャー、理学療法士、作業療法士が北海道医療大学病院などと連携し、適切な判断に基づいた在宅医療・介護サービスを提供。病状の観察、認知症ケア、在宅リハビリテーション、日常生活の支援、ご家族の介護相談などを行うチームに学生が同行し、多職種連携を実践的に学びます。

学生と地域住民が触れ合う、地域交流サロンや研修室を設置

認知症の方やその家族が集まり情報交換を行う認知症カフェをはじめ、広く地域住民の方々に開かれた多彩な交流会を開催できるスペースを設置します。学生が地域住民の方々と交流することで、医療や介護へのニーズを把握し、これからの医療人に求められていることを実感することができます。

台北医学大学短期留学プログラムの報告会を開催

[薬学部]

本学と台湾・台北医学大学との協定にもとづく「短期留学プログラム」が8月3日(月)から8月27日(木)までの4週間にわたり実施され、台北医学大学薬学部から、3年生の謝金玲(HSIEH CHIN-LING)さん、余敏(YU MIN)さんの2名、歯学部から4年生の劉志信(LIU CHIH-HSIN)君、蔡宛儒(TSAI WAN-JU)さん、蔡孟心(TSAI MENG-HSIN)さんの3名、口腔衛生学科から3年生の廖信如(LIAO SHIN-RU)さん、柳欣妤(LIOU HSIN-YU)さん、蘇承翊(SU CHEN-YIH)さんの3名、計8名が来学しました。

本プログラムでは、本学での授業をはじめ、薬学部では学外の調剤薬局見学実習、歯学部では本学大学病院の見学、歯科衛生士専門

学校では歯科診療補助実習等、それぞれ学部・学校の特色を活かした研修を行い、日本と台湾の薬学、歯学、口腔衛生学教育の違いを学びました。

8月27日(木)には報告会が開催され、4週間の授業や実習など短期留学の成果について、学部・学科ごとに発表しました。最後に安彦

国際交流推進室長から本プログラムの修了証明書がそれぞれに手渡されました。

報告会終了後には懇親会が行われ教員の他、交流のあった学生たちと共に留学中の思い出話に花を咲かせ、本プログラムの終わりを迎えました。



[看護福祉学部]

7月6日(月)から7月17日(金)までの2週間にわたり、台北医学大学看護学部から、3年生の李芷伊(LI CHIH-YI)さん、楊雅婷(YANG YA-TING)さん、杜宏倫(TU HUNG-LUN)君の3名が来学しました。

本プログラムでは、本学での授業、病院や社会福祉法人など医療現場の見学など、学部の特徴を活かした研修を行い、日本と台湾の看護福祉学教育の違いを学びました。

7月16日(木)には報告会が開催され、2週間の短期留学の成果について、プレゼンテーションやディスカッションを行いました。最後に本学平看護福祉学部長から本プログラムの修了証明書がそれぞ

れに手渡されました。

報告会終了後には懇親会が行われ、教員、学生ともに別れを惜んで、多くを語り合いました。台北医学大学との連携は年々強化されており、今年度は看護福祉学部を皮切りに、薬学部、歯学部、歯科衛生士専門学校

生の受け入れを予定しています。また、本学より薬学部、歯学部、看護福祉学部の学生を台北へ派遣する予定です。

本交流事業が充実するにつれ、国際的な医療人の育成が進むことが期待されます。



台北医学大学と薬学部との意見交換会を開催

8月28日(金)に台北医学大学薬学院の劉景平副院長と国際事務局の喬盈儒さんが来学し、本学薬学部との意見交換会が行われました。

意見交換会には、本学歯学部附属歯科衛生士専門学校の研修に参加した留学生に同行していた蔡恒恵口腔医学院院長も同席されました。

本学到着後、新川学長、黒澤副学長を表敬訪問し、その後役員室にて本学薬学部の和田学部長、小林准教授、高上馬准教授、足利准教授、国際交流推進室の佐藤講師が

同席し意見交換が行われました。

ディスカッションでは、前日に終了した留学生研修についての報告や、来年3月に予定してい

る学生派遣について、また、両校の英語教育についてなど多くの情報交換の場となり大変有意義な時間となりました。



新川学長・黒澤副学長を表敬訪問



意見交換後、臨床実習室等学内を見学

サハリン州立歯科病院 エレメーエフ院長が本学を訪問

11月4日(水)、サハリン州立歯科病院エレメーエフ院長が本学を訪問しました。

エレメーエフ院長は、本学教職員の数回にわたるサハリンへの訪問時に常に親身に対応してくださっておりますが、今回が本学への初めての訪問でした。

新川学長、齋藤歯学部長、泉リハビリテーション科学部長らと今後の連携について会談を行い、引き続き本学与医療保健の分野で連携することが確認されました。

その後、本学歯科クリニック、歯学部の実習室、大学病院等を見学され、「本学の先端的な設備に感銘をうけた」とのコメントを頂きました。なお、



前列左:エレメーエフ夫人、エレメーエフ院長、新川学長、黒澤副学長、後列左:タチアナさん(通訳)、齋藤歯学部長、泉リハビリテーション科学部長、安彦国際交流推進室長、佐藤講師

今回はサハリン州立歯科病院の歯科医師および歯科技工士が本学を訪れ、主に歯科技工分野の研修を行うための準備が進められています。



歯学部棟実習室、歯科クリニック、中央講義棟10階等を見学

福岡歯科大学との大学間交流に関する情報交換会を開催

9月4日(金)に福岡歯科大学から石川博之学長、学生部長の岡部幸司教授、教育支援・教学IR室の内田竜司准教授ら4名が来学し、福岡歯科大学と本学との大学間交流に関する情報交換会を開催しました。



(上段)左から越智守生教授、齋藤隆史歯学部長、岡部幸司教授*、内田竜司准教授*、赤坂竜之介学務課学生係長*
(下段)左から新川詔夫学長、石川博之学長*
*福岡歯科大学

福岡歯科大学と本学は、「教育に関するIR情報の収集・分析および情報交換」ならびに「その他の教育に関する相互交流活動」の推進を目的として、本年7月28日に大学間交流に関する協定を締結し、この度、第1回情報交換会を開催したものです。

新川学長、黒澤副学長との挨拶の後に行われた情報交換会には、本学から齋藤歯学部長、越智歯学部学生部長ら4名が出席し、福岡歯科大学および本学が収集・分析している情報を相互に確認し、その他教育に関する交流内容について、活発な意見交換が行

われました。

福岡歯科大学と本学が互いに教育情報を分析・共有することによって、今後、両大学の教育改善および交流がますます推進されることが期待されます。



左から福岡歯科大学の内田竜司准教授、石川博之学長、岡部幸司教授、赤坂竜之介学務課学生係長

中山大学・イエテボリ大学短期留学プログラムの報告会を開催

8月7日(金)に中山大学・イエテボリ大学短期留学プログラムの報告会が行われました。

中山大学(中国・広州)は昨年6月に、イエテボリ大学(スウェーデン)は今年の2月に歯学部間で交流協定を締結。両校とも今回が初めての受け入れとなりました。

中山大学歯学部からは、朱曉蕊さん、程楊帆さん、楊馥寧、欧展鵬君の4名が来学し、7月14日か

ら8月7日まで研修を、イエテボリ大学歯学部からはDaniel Wågsjö君が7月29日から8月12日まで同じく研究室や大学病院での研修を行いました。

報告会では、日本と自国との歯科医療の違いや、今回のプログラムで学んだこと等を発表し、安彦国際交流推進室長より修了証明書がそれぞれに手渡されました。

その後の懇親会では、教員の他、現在研修中の台北医学大学短期留学生や、昨年海外研修に行った学生、歯学部研究科の留学生等も参加し、国際色豊かな会となりました。

来年3月には、本学より各提携校への学生派遣も予定しており、今後ますますの国際交流が期待されます。



左から遠藤教授、ダニエル・ヴォクショー君、楊馥寧さん、程楊帆さん、安彦教授、欧展鵬君、朱曉蕊さん、古市教授



報告会の様子



安彦教授より修了証明書の授与

2016年度 入試結果速報

北海道医療大学

AO方式・一般推薦・指定校特別推薦で志願者は合計444名。

AO方式入試は、全体で175名の志願があり、92名が合格、実質競争倍率は1.9倍となりました。

一方、11月15日(日)の推薦入試は本学当別キャンパスをはじめ、帯広、北見、函館、仙台、東京、大阪、那覇の全国8会場で実施。志願者総数は113名(指定校特別推薦除く)で、実質競争倍率は1.8倍でした。

編入学試験は、全体で24名の志願があり、11名が合格、実質競争倍率は2.2倍となりました。編入学試験は、薬学部と歯学部は1月31日(日)、看護福祉学部、心理科学部、リハビリテーション科学部は1月30日(土)に、それぞれ札幌、東京、大阪の3会場で行われます。

■2016年度 編入学試験(I期)結果

()内は前年度実績

学部・学科名	入試形態	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	実質競争倍率
薬学部	社会人		5(6)	5(5)	4(2)	1.3(2.5)
	一般	7(7)	5(8)	5(7)	2(2)	2.5(3.5)
歯学部	2年次	若干名(若干名)	8(6)	8(5)	3(5)	2.7(1.0)
	3年次	若干名(若干名)	3(1)	3(1)	0(1)	—(1.0)
看護福祉学部 ●看護学科	社会人		0(0)	—(—)	—(—)	—(—)
	一般	6(6)	1(0)	1(—)	1(—)	1.0(—)
●臨床福祉学科	社会人		0(0)	—(—)	—(—)	—(—)
	一般	6(6)	0(1)	—(1)	—(1)	—(1.0)
	指定校		0(3)	—(3)	—(3)	—(1.0)
心理科学部 ●臨床心理学科	社会人		0(0)	—(—)	—(—)	—(—)
	一般	2(2)	1(1)	1(1)	0(0)	—(1.0)
リハビリテーション科学部 ●理学療法学科	社会人		0(0)	—(—)	—(—)	—(—)
	一般	3(3)	1(2)	1(2)	1(0)	1.0(—)
●作業療法学科	社会人		0(1)	—(1)	—(0)	—(—)
	一般	3(3)	0(0)	—(—)	—(—)	—(—)
合計		27(27)	24(29)	24(26)	11(14)	2.2(1.9)

※2017年度より、リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科の編入学試験を実施予定。

■2016年度 AO方式入試・推薦入試結果

()内は前年度実績

学部・学科名	入試形態	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	実質競争倍率
薬学部	AO方式	17(17)	34(39)	34(39)	21(24)	1.6(1.6)
	一般推薦	17(20)	32(22)	31(22)	18(19)	1.7(1.2)
	指定校特別推薦	28(25)	53(38)	53(38)	53(38)	1.0(1.0)
歯学部	AO方式	20(20)	10(19)	10(19)	10(17)	1.0(1.1)
	一般推薦	8(8)	2(4)	2(4)	2(4)	1.0(1.0)
	指定校特別推薦	8(8)	9(7)	9(7)	9(7)	1.0(1.0)
看護福祉学部 ●看護学科	AO方式	6(6)	48(47)	48(47)	10(10)	4.8(4.7)
	一般推薦	16(16)	42(50)	42(50)	20(21)	2.1(2.4)
	指定校特別推薦	16(16)	30(32)	30(32)	30(32)	1.0(1.0)
●臨床福祉学科	AO方式	15(15)	5(11)	5(11)	5(10)	1.0(1.1)
	一般推薦	10(10)	0(0)	—(—)	—(—)	—(—)
	指定校特別推薦	14(14)	12(10)	12(10)	12(10)	1.0(1.0)
心理科学部 ●臨床心理学科	AO方式	10(10)	12(9)	12(9)	11(9)	1.1(1.0)
	一般推薦	10(10)	1(3)	1(3)	1(3)	1.0(1.0)
	指定校特別推薦	10(10)	12(11)	12(11)	12(11)	1.0(1.0)
リハビリテーション科学部 ●理学療法学科	AO方式	10(10)	42(43)	42(43)	14(13)	3.0(3.3)
	一般推薦	10(10)	23(42)	23(42)	10(15)	2.3(2.8)
	指定校特別推薦	10(10)	19(15)	19(15)	19(15)	1.0(1.0)
●作業療法学科	AO方式	5(5)	8(17)	8(17)	7(8)	1.1(2.1)
	一般推薦	5(5)	5(15)	5(15)	5(6)	1.0(2.5)
	指定校特別推薦	5(5)	6(9)	6(9)	6(9)	1.0(1.0)
●言語聴覚療法学科	AO方式	12(12)	16(21)	16(21)	14(18)	1.1(1.2)
	一般推薦	7(7)	8(8)	8(8)	8(7)	1.0(1.1)
	指定校特別推薦	8(7)	15(12)	15(12)	15(12)	1.0(1.0)
合計	AO方式	95(95)	175(206)	175(206)	92(109)	1.9(1.9)
	一般推薦	83(86)	113(144)	112(144)	64(75)	1.8(1.9)
	指定校特別推薦	99(95)	156(134)	156(134)	156(134)	1.0(1.0)
		277(276)	444(484)	443(484)	312(318)	1.4(1.5)

歯学部附属歯科衛生士専門学校

AO方式入試に31名の受験。

本年度、AO方式入試には現在までのところ31名の受験があり、全員が合格、実質競争倍率は1.0倍でした。一般前期入試(B日程)は、1月31日(日)に札幌、旭川、帯広、北見、函館の全道5会場で行われます。

■2016年度 AO方式入試・推薦入試結果

()内は前年度実績

学科名	入試形態	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	実質競争倍率
歯科衛生科	AO方式	20(20)	31(44)	31(44)	31(44)	1.0(1.0)
	推薦入試	17(17)	0(3)	—(3)	—(3)	—(1.0)

札幌丘珠高等学校との 高大連携授業を実施

7月2日(木)、3日(金)と8月24日(月)、25日(火)の4日間にわたり、札幌丘珠高等学校3年生数理フィールド看護コース17名、数理フィールド生物選択10名を対象に、高大連携授業を実施しました。

7月2日(木)、3日(金)は看護コースの学生が高齢者体験やグループワークを行いました。

8月24日(月)、25日(火)は、両コースの学生が参加し、数理フィールド生物選択の学生が、本学個性健康科学研究所太田亨教授による、自分の細胞からDNAを抽出し、耳垢型を解析する実験を実施。看護コースの学生が妊婦体験や新生児のケアについて学びました。

遺伝子解析実験や大学ならではの学問・研究の様子を知る機会を持ち、またその内容について理解と興味を深める有意義な時間を過ごしたようでした。



札幌開成中等教育学校特別講義 「プレ先端科学特論」を実施

8月11日(火)と12日(水)の2日間にわたり、札幌開成中等教育学校4年生48名を対象に、特別講義「プレ先端科学特論」を実施しました。

テーマは「自分の遺伝子を解析してみよう」。初日は本学個性健康科学研究所太田亨教授による遺伝子の基礎についての講義と、自分の細胞からDNAを抽出し、耳垢型を解析する実験を実施。

2日目は、新川昭夫学長による「研究不正行為」の講演後、2つの班に分かれ、岩手医科大学医学部臨床遺伝学科徳富智准教授による講義「家系図作成プログラムを使って家系図を作成しよう」と、初日の実験結果の確認・玉ねぎのDNAを抽出する実験をそれぞれ交互に行いました。

1月6日(水)・7日(木)にも別クラスにて「プレ先端科学特論」を実施予定です。本学の学問・研究が高校生の興味関心を引き出すきっかけになれば幸いです。



平成27年度地区別懇談会を開催 多数のご出席ありがとうございました

平成27年度の地区別懇談会は、10月12日(月)から11月1日(日)までの期間、全国15地区16会場(右表参照)で開催し、908組1,229名の保護者の皆様にご出席くださいました。(出席率26.0%)

各会場では、総会(後援会・学園役員挨拶/学園動向報告)、学部・学校別懇談会(現況報告、国家試験・就職関連動向報告)、全体懇談会、個別面談(学生生活全般に係るご相



■総会(札幌会場)

談)を実施し、特に、担当教員との熱心な個別相談が行われていました。

講演会は、学生のサポート役、保護者の皆様と卒業生、学園をつなぐパイプ役として、また、学園の牽引役として組織の強化、地区支部の活性化、学生生活関連助成、同窓会活動支援等を柱とし、学生生活における快適な環境をつくることを大きな目的として事業活動を推進しております。

地区別懇談会は、後援会が「保護者の皆様と学園をつなぐ貴重な架け橋」として最も力を入れている事業活動のひとつであり、皆様により一層ご満足いただけるよう、内容の更なる充実に向け、今後も改善を図って参りますので、温かいご支援、ご理解とご協力を賜り、来年度もぜひご出席くださいますようお願い申し上げます。

開催地	開催日	出席者数	
		大学大学院	専門学校
札幌	10月12日(月)	380組	23組
釧路	10月24日(土)	56組	5組
帯広	10月25日(日)	61組	7組
旭川	10月31日(土)	80組	5組
北見	11月1日(日)	55組	2組
函館	10月24日(土)	71組	2組
青森	10月25日(日)	39組	1組
盛岡	10月17日(土)	11組	—
仙台	10月18日(日)	25組	—
東京	10月31日(土)	25組	—
名古屋	10月17日(土)	12組	1組
大阪	10月31日(土)	18組	—
広島	11月1日(日)	5組	—
福岡	10月18日(日)	11組	—
那覇	11月1日(日)	13組	—
小計		862組	46組
合計		908組	

平成27年度学園・同窓会役員懇談会を開催

11月26日(木)午後7時よりニューオータニイン札幌において平成27年度「学園・同窓会役員懇談会」を開催しました。懇談会には、各同窓会役員等19名、並びに学園より新川学長や黒澤副学長、学園理事、各学部長、専門学校長、及び事務局の総勢36名が出席しました。

懇談会は、学長による挨拶の後、学園より入試概要・学園動向報告、学部・学校現況報告(資料配布)、また各同窓会より活動状況のご報告がありました。各同窓会と学園の間の強固かつ盤石な協働体制及び各同窓会相互の横断的な交流の重要性を再認識し、盛会裏に終了しました。



平成27年度学内合同就職相談会を開催

10月8日(木)、臨床福祉学科・臨床心理学科・言語聴覚療学科を対象とした「平成27年度学内合同就職相談会」が開催されました。

当日は道内外の病院・施設・企業・公務等団体より人事担当の方々が多数来学され、学生に対して就職に関する説明や相談等をしていただきました。

参加した学生は各ブースを積極的に訪れ、活発に相談等を行うなど、終始賑わいをみせておりました。

また、会場内には専門のインストラクター

を招き、面接対策や公務員等試験対策コーナーも設け、そちらでも積極的な質疑応答の姿が多数みられました。

本学では各学部ごとにほぼ毎月、就職ガイダンス等を行い、学生の卒業後の確実な就職にむけて、教職員協働のうえ、きめ細やかな指導をしております。本学各学部・学科に関わる職種の求人お申し込みについては、本学ホームページをご参照ください。



合同就職相談会参加団体

117団体〈病院・施設・一般企業ほか〉

学生支援課(就職担当)

job@hoku-iryo-u.ac.jp TEL.0133-23-1102

〔就職関連ホームページ〕 <http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~syusyoku/index.html>

親元を離れ、 東北・弘前で過ごした 3年間

リハビリテーション科学部
理学療法学科
教授 鈴木 英樹



道北の片田舎の高校を卒業し、進学した先は、旭川でもなく、札幌でもなく、なぜか同じく雪深い東北は弘前市にある3年制の短期大学部でした。なぜ弘前だったのか。そこに深い理由はありませんでした。高校3年生の夏まで部活動に明け暮れ、1984年のロス・オリンピックでのカール・ルイスの活躍をのんびりと見て過ごす夏休み。進学先をどうしようかと考え、まずは受験科目から学校選びです。運よく?合



弘前と言ったらお城と桜、花見の時期は講義そっこのけて宴会の場所取りが下級生の役目

格しましたが、その際の面接では、とんでもないことを言っていた、と入学後に教員の先生から教えて頂いたのです。

入学後、最初の講義はリハドクターによる神経学の講義。板書なんてありません。途端に不安になりました。二講日は、骨解剖学。こちらも、時折ある縦書きの板書とお経のように流れる講義。寝てしまいました。下宿までの帰り道、「こりゃ、とんでもないところに来ちゃった…」と後悔したことを覚えています。

短大での3年間は、とにかく先生方に迷惑をかけっぱなしでした。勉強の方は要領のよさと、先輩からの情報収集などで何とか乗り切っていましたが、課外活動でケガをして講義を休むわ、長期実習中に風疹になって実習先に迷惑を掛けるわ、挙げ句の果てに、最後の長期実習では、実習ではなく、実習先の病院行事で



1学年20名と小規模な学科でしたので、先生や先輩後輩を交えての飲み会はしょっちゅう。(写真中央のストライプ柄のシャツを着ているのが私)

張り切り過ぎて腎臓を悪くし、実習中止⇒追加実習⇒年末年始にむりくり卒論完成といった有り様でした。

しかしながら、先生方はいつも応援してくれました。そして、地域に根差した講義や演習の機会を多く設けてくださいました。卒業後の最初の就職先は総合病院でしたが、その後、行政や地域リハビリテーションに携わることとなったのも「弘前マインド」が大きく影響しているのだと思います。そして、

恩師の後押しがあって教員になることにしました。このように、「弘前マインド」が現在の教員生活や日々の講義にも大きく影響しているように感じます。

私の 学生時代

今、本学の教壇に立たれている先生たちは、学生時代をどのように過ごしていたのでしょうか。今回は鈴木英樹教授と巻康弘准教授のお二人に、当時の様子を語っていただきました。

自己決定と出会い。 そしてつながり

看護福祉学部
臨床福祉学科
准教授 巻 康弘



「追加手術をしませんか?」。主治医からの問いかけに「お願いします」という母に、「あなたではない。彼に聞いているのです」とベッドサイドでの予期せぬ自己決定の求め。中2の私は、ちょっとうれしく悩んだ記憶があります。結果「手術=留年」。母の意向と同様だが重みが違った。中学4年間の道の



子どもたちと仲間と取り組んだ「子ども祭り」(前列左側が私)

りへの不安は、先生の勧めの合唱部での新たな出会いでそれなりに有意義なものに。高校は写真部でバチリ。大学選択にあたっては、自己の将来像をイメージしたもの、中学校の先生?、ロバート・キャパ(戦場カメラマン)に憧れ写真家?、思い描いては消え、結局不明確なまま社会福祉学科での大学生活がスタート。

大学生活は、時々真面目に聴く講義は興味深い。しかし、最も興味深かったのは学生セツメントでした。毎週市内の公園に向向き、子供の異年齢集団作りを通じた地域活動。平日は3地域での実践の振り返り&飲み会。衰退していた道内学生セツメント団体を再組織化し、医学、看護、教育、経済、英文、社会福祉等々100名の再結集へ。医学部の先輩宅での毎週泊まり会議&飲み会。全国組織でも合宿&飲み会の日々。個別から組織へ。自己や組織の意思決定の苦労以上に、組織からネットワークへ広げていくこ

とで、様々な出会いが生まれることが面白かった毎日でした。

一方、時々真面目に聴いている程度の学業は、今ならOSCEやCBTで不合格間違いなし。実習は甘くはなく事前学習不足を痛感。にもかかわらず「障害者の自己決定権が保障されてない」等の生意気発言は大学への苦情にも。2度目の実習の実習指導者は、「そうなんだ。現場は変える必要がある」と受け止め、自らの考えとともに休日も含め付き合っただる姿に「かっこいい」と。さらに、せっかくの「自己決定とパートナーリズム」をテーマにしたゼミも、出席率が悪いにもかかわらず、厳しくも優しい多くの問いかけを戴いた恩師の姿もありました。私の学生生活、そこには、体験と多くの人の姿と酒が満載でした。



道内のセツラー(先輩宅)での一場面(左側が私)

OB訪問



渡邊さんは本学看護学科の4期生、大正9年(1920)開院の歴史ある慶應義塾大学病院での勤務も15年になります。現在は24時間365日体制で年間約2万人の救急患者を受け入れる救急外来で主任看護師として活躍しています。

慶應義塾大学病院救急外来 看護師

渡邊 久覚さん (看護福祉学部看護学科2000年3月卒業)

■ 年中無休の救急の現場で

渡邊さんの職場、慶應義塾大学病院救急外来は、救急車では主に2次救急(入院治療が必要)患者さんが搬送され、重篤な3次救急(ICUでの治療が必要)にも対応しています。加えてご自身で受診に訪れる年間約1万人を数える患者さんにも対応。救急外来は、心筋梗塞や脳卒中、事故等による外傷、薬物中毒など、重症から軽症までありとあらゆる疾病を24時間体制で受け入れる救急医療の最前線の場です。

■ 助けた命のその先を

「救急」という言葉の響きから、一刻を争うスピード感と緊張感、ドラマチックなイメージが持たれる救急外来。渡邊さんも「TVドラマのクライマックスのように、救命できた瞬間がやりがいのピークと思われることが多い」と言います。しかしリアルな救急医療の現場は少し違うようです。「助かったもう大丈夫、ということはありません。最終的に元の生活に戻れるかどうかが重要です。そのために何をすべきかを考えます。ですから私たちは急ぐんです。救急医療が予後を左右します。例えばショック

状態^{※1}の患者さんも全身への影響が最小限のうちに、少しでも早くバイタルサイン^{※2}を安定させられるかで患者さんの人生が大きく変わります」。

重篤な患者さんが搬入されれば救急外来は医師や看護師が目まぐるしく動く熱い医療現場になります。その中で渡邊さんはスピーディーな処置と同時に患者さんの情報収集に努め、その生活を思い描きます。何をしている人なのか、なぜここに来ることになったのか、家に家族はいるのか。「たとえ意識がなくて会話ができない状態であっても患者さんを生活者として見る視点を忘れません」と言う渡邊さん、信条は「クールヘッド、ウォームハート(冷静な頭脳と温かい心)」です。

※1 様々な原因で血圧が極度に低下し、全身の重要な臓器・組織へ十分な血流を保てなくなった状態。

※2 「生きていくしるし」。基本的に脈拍、呼吸、血圧、体温を指します。

■ 後輩のロールモデルに

看護師主任である渡邊さんは看護師のシフト作成、資材・機材管理、研修受け入れの調整、診療科との折衝など管理職としての業務を担うと共に、3交代勤務の現場で看護を実践し後輩を指導する、いわゆるプレイングマネージャーです。さらにこの15年間、もう一つのロー



静岡県出身。高校ではテニス部でしたが「よりアグレッシブなスポーツを」と本学ではアメフト部へ。副将を務めました。ストリートに力と力がぶつかり合うアメフトは、「体」「運動」「人」が好きという渡邊さんの心身を鍛え、人格形成を促したといいます。

ルモデルとしての役割も果たしてきました。

渡邊さんが慶應義塾大学病院に就職した2000年は同院が初めて新卒男性看護師を採用した年。この年採用された男性看護師は5人、全員が本学卒業生でした。「当時男性の仲間を初めて受け入れた女性看護師にはとまどいや違和感もあったようですが、それもいまはなくなりました。看護師として、性差は個性の一つです」。現在同院に勤務する約1000人の看護師のうち男性は80人ほど、大きな力になっています。本学でも、現在看護学科で学ぶ学生の8人に1人が男子です。

■ キャリアビジョンを描く

救急外来勤務を通して災害看護分野に強い関心をもつようになったという渡邊さん。災害看護専門看護師、災害看護グローバルナース、災害派遣医療チーム(DMAT)など、いくつものキーワードから今後の可能性を考慮して、キャリアビジョンの輪郭も徐々に見えてきているようです。大きな災害を経験した我が国でその発展に期待が寄せられる災害看護、いつか渡邊さんからその分野のリアルなお話を伺えるかもしれません。



ここから手術室やICUへ移される患者さんといえば、鼻にブロックを詰めてしまい泣いている幼児も。看護師には広い知識、素早い行動力、冷静な判断力、そして安心感を与えられる対応力が必要です。





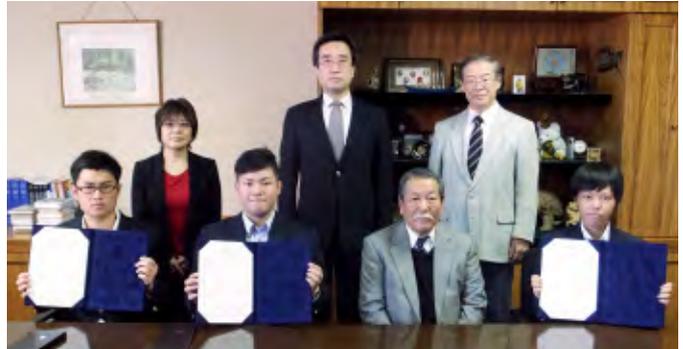
2015 SCP (学生キャンパス副学長) 任命式が行われました

10月6日(火)に「2015 Student Campus President(学生キャンパス副学長)任命式」が行われました。

看護福祉学部、心理科学部、リハビリテーション科学部から、選挙により選出された学生に対し、新川学長からSCP任命状と専用ブレザーネクタイが手渡され、激励の言葉を頂きました。

SCPは、より良い大学づくりのために学生代表が教職員とともに各種プロジェクトの企画・立案を行い実施する、全国でもめずらしい北海道医療大学独自の制度です。SCPの多岐にわたる活動は、全国から大変注目されています。

薬学部・歯学部については、引き続き候補者を募集しており、また活動状況についても、随時、SCPホームページやブログにて報告しております。ぜひともご覧ください。



SCPホームページ <http://scp.hoku-iryu-u.ac.jp/>

第8期SCPよりご挨拶

看護福祉学部
山平 雄貴 (やまひら ゆうき)



学生の交流を 活発にするために

学生の代表として、取り組んでみたいことは多くありますが、特に取り組みたいことが2つあります。

1つ目は、新しい行事を増やしたいということです。具体的には、九十九祭のソフトボールなどのスポーツの行事に加えて、何か学生の皆さん誰でも参加できるような行事を増やすことができればと思っています。

2つ目は、ボランティア活動や部活動などをもっと活発にして、大学全体を盛り上げていきたいです。

最後に、私はSCPのような学生の代表になる経験を今までにしたことがなく、今の時点では力不足であると思いますが、学生の皆さんの意見や要望を大学に伝え、私たち学生の生活がより良いものとなるよう一生懸命頑張りますので、よろしく願い致します。

心理科学部
渡邊 泰羅 (わたなべ たいら)



2期目への決意

私は昨年1年間、第7期SCPとして活動してきました。当初は、私の中でSCPとしての活動方針が定まらず、ただ与えられた活動をしてきました。

しかし1年の任期を終えた今、私の中で、今後のSCPとしての活動方針が見え始め、SCPとしての活動にも強いやりがいを感じています。

そこで、このままSCPを引退するのではなく、SCPとして学んだことや多くの経験を生かし、より発展的で先進的な活動をしたいと思い、2期目の続投を決めました。

第7期SCPの経験を力に、第8期のSCPをリードして行きたいと思っています。

リハビリテーション科学部
日野 里恵 (ひの さとえ)



SCPを 身近な存在に

私はSCPとして、より良い大学を作り上げていくための身近な存在となり、学生のみなさんの意見や要望に耳を傾け、精力的に最後まで責任を持った活動を行っていきたく考えております。

そのためにまずはSCPという組織をみなさんに知って頂けるような活動を行いたいです。そして、活動をする上で浮上してくるさまざまな課題にも積極的に取り組み、他の学部のSCPとも解決に向け協力していきます。がむしゃらに頑張りますので、宜しく願い致します。

SCP (学生キャンパス副学長) 活動報告会2015が開催

11月4日(水)、Student Campus President(学生キャンパス副学長)活動報告会が開催されました。

新川学長、黒澤副学長はじめ各学部長や学生部長同席のもと、第6期・第7期のSCPからこれまでの学内外における活動内容について詳細な報告がなされました。

内容報告後は、学長や各先生から活動に対する激励の言葉とともに、今後のSCP活動にかかわる多く貴重な意見をいただきました。



文化週間

「文化週間を振り返って」

文化局執行部 秋山 隼人 (歯学部 3年)

文化週間とは、文化局に所属している部活やサークルが展示発表や演奏会、日頃行っている活動の公開などを通して、学生や教職員など大勢の方々にそれぞれの団体がやっている活動内容を知っていただくために、毎年開催している企画です。今年度は11月2日(月)から11

月6日(金)にかけて開催しました。

弦楽部や吹奏楽団、新たに加わったピアノ同好会による演奏会、ダンス同好会によるダンスイベント、美術部や写真部の展示会など、それぞれの団体の個性を生かして様々な発表を行い、昨年以上に盛り上がりました。文化局に

所属している団体の多くは、皆さんに活動を披露する場が少ないので、文化週間などを通して興味を持っていただけたら幸いです。

最後になりましたが、文化週間に参加、協力して下さった皆様、本当にありがとうございました。

■開催内容

軽音楽部	軽音Live
YOSAKOIソーラン祭り部	演舞上映
茶道部	お茶会
カフェサークルBonheur	模擬カフェ
PRANCY	ダンス発表
HAPPILY	
北海道医療大学ピアノ同好会	ミニコンサート
美術部	作品展示
Pharm*H	発表展示
SF研究部	部誌配布
アカペラ同好会《chapel》	アカペラコンサート
弦楽部	ミニコンサート
北海道医療大学吹奏楽団	ミニコンサート
植物研究部	研究発表
写真部	写真展



軽音楽部



茶道部



アカペラ同好会《chapel》



弦楽部

クラブ

今年もたくさんのクラブが各大会で大健闘!

学友会体育局/文化局所属の各団体より4~9月の試合結果が報告され、以下の優秀な成績を残しました。

■2015年度上半期クラブ戦績

団体名	月日	大会名	参加種目	戦績
体育局	バレーボール部	4/25~4/26	第48回大滝杯北海道大学男女バレーボールリーグ春季大会	男子(三部リーグ) 準優勝
	卓球部	5/16~5/17	第85回全日本大学総合卓球選手権大会(団体) 北海道予選兼第48回会長杯争奪卓球大会	団体 準優勝
	柔道部	8/8~8/9	第47回全日本歯科学生総合体育大会	個人男子66kg級 準優勝
	ウェイトトレーニング部	9/6	第25回北海道ベンチプレス選手権大会	一般女子72kg級 優勝
文化局	吹奏楽団	8/2	第60回北海道吹奏楽コンクール札幌地区予選	一般C編成 金賞(地区代表)



北海道吹奏楽コンクール札幌地区予選 金賞

球技大会

「白熱した5日間」

山日 祐平 (薬学部 1年)

今年の秋季大会は11月9日(月)から11月13日(金)までの5日間にわたり開催されました。



学部、学科、学年問わず多くの参加者が白熱した試合を行いました。バスケットボール大会、フット



サル大会ではシュートが決まるたび、バレーボール大会ではスパイクが決まるたびに選手はガッツポーズを、観客は歓声をあげ、会場が一体となって盛り上がりっていました。

また、今年は新企画のパン食い競走、玉入れ、しっぽとり、ボールホッケーを開催し、選手だけでなく観客などたくさんの方にご参加いただきました。参加選手、観客、ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

ご当地体操で介護予防! 本学リハビリテーション科学部 鈴木教授が考案

今や、ご当地体操百花繚乱。函館市のイカ踊り体操。網走市のカニちよっきん(貯金)体操、等々。そんな社会情勢の中、当別町役場の方から呼び出されたのは今年の4月です。「当別でも、介護予防のための体操を作ってほしい」というご要望を頂き、早速…とはいかず、説明資料を机の引き出しに仕舞い込んで4か月。8月に入ると、役場の方から「9月の高齢者クラブの運動会でお披露目したいのでヨロシク」と。

こんな経緯で、構想5か月?作成〇日?で、体操は完成したのです。もともと、このような体操を作成した経験があったので、その際のノウハウをフル活用。そして、本学部の近藤教授に音楽監修をお願いして、運動会の1週間前に無事完成したのでした。

これからの課題は、いかに地域住民の方に周知し、日々の生活に取り入れてもらうかということ。そのために、当初、役場に「ケーブルテレビを当別に導入し、定時放送しては!?」などと提案しましたが、当然のごとく却下されましたので、まずは関係者の方への地道な啓発と、学生の講義などを通じて地域への周知が図れないかと模索中であります。タイトルはまだ決まっておりません。「仮称:当別三日坊主体操」。これから宜しくをお願いします。



北海道新聞朝刊(平成27年9月2日)掲載記事

本学歯学部6年生 中島美咲さんが、 『第21回SCRP日本代表選抜大会』において臨床部門第2位を受賞

8月21日(金)、日本歯科医師会館において日本歯科医師会が主催(後援:デンツプライインターナショナル)するスチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム(SCRP)日本代表選抜大会が開催され、全国の歯科大学・学部27校の代表スチューデント・クリニシャンが、それぞれ学部生としての研究成果を発表しました(発表及び質疑応答は英語)。

臨床部門の1位と2位、基礎部門の1位と2位のみが表彰され、本学の歯学部代表として参加した6年生の中島美咲さんは見事、臨床部門2位を受賞しました。また、8月26日(水)にその栄誉を称え、歯学部長室において表彰状の授与式を挙行了しました。



EDITOR'S NOTE

先日、ワールドカップラグビーが閉幕しました。テレビの前で手に汗を握りながら応援された方も多いのではないのでしょうか。残念ながら日本代表チームは、ベスト8進出とはなりませんでしたが、初戦では、優勝候補の南アフリカを破り、史上最大の番狂わせといわれました。しかしこれは、ジョーンズHCのもと、強豪チームの3倍と言われる練習量をこなしたからに違いありません。改めて、日々の積み重ねが大事であると認識させられた出来事でした。

北海道の地では、初雪がふり、間もなく校舎の周りも一面の雪景色となります。冬が近づくと、学内では、国家試験に向けての講義が組まれ、夜遅くまで勉強する学生が多く見受けられます。この努力が、報われるよう、我々教員も学生と一丸となってスクラムを組みゴールに向かって突き進みたいと思っています。そして春には、是非、ラグビー日本代表のジャージのような吉報が届くことを願っています。

(S:記)

ADVANCE

北海道医療大学広報誌 No.162

STAFF ● 遠藤 泰 尚也 長澤 敏行 伊藤 修一
遠藤 紀美恵 志渡 晃一 金澤 潤一郎 武田 涼子
澤村 大輔 白鳥 亜矢子 千葉 利代 杉谷 晶彦
宮川 雄一 國見 明美 塚田 将人

発行日 ● 2015年11月

編集・発行 ● 北海道医療大学広報・教育事業部 入試広報課
〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757
☎(0133)22-2113
<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/>

広報誌についてのご意見・ご要望・情報等をお待ちしております。
E-mail:nyushi@hoku-iryo-u.ac.jp



■北海道医療大学の教育理念
生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成することによって地域社会ならびに国際社会に貢献することを本学の教育理念とする。